

阿夏淵、太郎坊ヶ淵の由来

《上江花》

上江花より勢至堂に向かつて街道沿いに、江花川が流れ、いくつかの滝や淵がある。ここは春の若葉、秋の紅葉がみごとである。

太郎ヶ淵はその深さはかり知れず、昔、ここに靱穀を流すと天栄村は牧之内、金比羅様の清水に浮上るといわれていた。

昔、興良親王の妃、阿夏の方と御子、太郎坊は、東北の地に下った王の後を追って、江花の地まで来たところ、すでに王は薨去されたと伝え聴き、悲しみのあまり、淵に身を投げて、その命を断ってしまった。

太郎坊の入水した所を「太郎坊ヶ淵」、阿夏の方が入水した所を、「阿夏淵」と呼んでいる。太郎坊の足跡が岩に残っていたという。

(話者 石井政司)



阿夏淵

築都新之助

《上江花》

上江花墓地の森岡家の墓の中に、築都新之助、亀井氏由伊という墓碑がある。当地方には珍らしい苗